

クマの出没で閉鎖されている浦臼町の登山道



# 今年の砂川署管内

## クマ出没 大幅減

### 上砂川、昨年の10分の1

【砂川】砂川署管内(砂川市と奈井江、上砂川、浦臼の3町)で、今年のクマの目撃情報や足跡などの発見件数が、昨年の計33件から計9件(18日現在)と激減している。特に昨年はクマの出没に悩まされた上砂川町で10分の1に減少。関係者は胸をなで下ろしつつも「冬眠はまだ早い。警戒は必要だ」としている。

(石田礼)

#### 「警戒必要」

同署によると、昨年1月から12月までの管内でのクマ目撃などの情報の内訳は、上砂川町が23件と4市町で最も多かったが、今年はずか2件に減った。砂川市も同様に9件から4件に。奈井江町は1件あったが今年は無。昨年は情報が無かった浦臼町のみ、3件

の報告があった。上砂川町では昨年、市街地に頻繁にクマが出没。逃げる途中に町民がけがをしたり、生ごみを堆肥化するコンポストが荒らされるなどの被害があり、10月には推定2歳の子グマが駆除された。

今年状況について(2件の目撃情報は)例年通りで、一昨年末の状況に戻った(町企画振興課)。町は箱

わなを新たに製作したが、「設置する必要は今のところない」(同課)状況だ。

今年全道的にドングリが不作とされるが、地元猟友会で約50年活動するベテランハンターの恒遠行夫さん(69)は「山には山ブドウなどが豊富にある。人里に近づく必要がないのだから」と話す。

ただ、上砂川町周辺には「5頭程度いる」(恒遠さん)といい、町役場の担当職員も「冬眠を前に油断できない」と町民に警戒を呼びかけている。

一方、浦臼町はクマの出没に困惑している。9日には、町内ウラウシナイの畑で飼料が荒らされる被害が発生した。町は同日、畑より山奥にある浦臼山頂に続く登山道入り口を閉鎖する措置をとっている。